リメンバー・ミー

倉橋 観隆

先日、ディズニーアニメを見ました。昨年話題になった『リメンバー・ミー』という作品です。「私を覚えていて」ということでしょうか。

お話はメキシコが舞台で先祖を敬い供養することがテーマになっていました。

映画では「死者の日」の出来事が描かれています。死者の日とは日本のお盆と同じように、一年に一日だけ先祖が子孫の家に帰って来る日として大切にします。

祭壇にご先祖の写真を飾り好物をたくさんお供えして、家族全員でお祈りをしご馳走を食べて賑やかに過ごします。ただし帰れる先祖には絶対条件があって自分の写真が飾られていないといけないのです。写真もなく自分の事を思い出してくれる人が一人もいなくなると死者の世界からも消え去ってしまうのです。

主人公のミゲル少年のひいひいおじいさん、つまり高祖父が世界的なミュージシャンだったのですが家族を捨てて自分だけ好きな道を選んだため高祖母は塗炭の苦労を味わいます。その為決して子や孫達にも彼の写真を飾らせようとさせません。しかし自分もミュージシャンを目指すミゲルは高祖父に会いたい一心で、ある事がきっかけで死者の世界へ迷い込みます。そこで彼は誰にも写真を飾って貰えず死者の世界からも消えかかろうとしている高祖父を見つけたのです。なんとか消えるのを食い止めようと必死に頑張ります。最後は様々な誤解も解け高祖父は写真を飾ってもらうことができ子孫共々ハッピーに暮らしたという話です。

この話のテーマは高祖父が語る「人間は二度死ぬ。一度目は肉体の死。二度目の死は自分が家族の思い出からも消えてしまうこと」

私たち仏教徒が営む法事の意義もここにあるのではないでしょうか。年月の流れの中で死者の存在が薄れ行く。凡夫には致し方のないことかも知れません。だからこそご先祖様は私たちに思い出す為のすべを残してくれていたのです。

私も貴方も必ず「リメンバー・ミー」になるのです。

編集・発行
日蓮宗　能勢妙見山
広　報　部
〒563-0132
大阪府豊能郡能勢町野間中
電 話　072-739-0329
FAX　072-739-2883

《法華経に学ぶ現代》 ～純智庵～

未来世に於て
當に作佛する
ことを得べしと
問わば
示すべし
必ず作佛
することを
得んと

『法師品第十』

この世に生まれて来たときは
素直な願いを持ってただろう
それならあの世に往く時は
どんな思いを託そうか
死んだら終わりと人は云う
だけど未来を信じたい
仏は待ってくれてると
たとえその道遠くとも
信じる力で進みたい

【11月の主な行事】

☆七五三詣祈祷　1日～30日
◎お子様の成長を祈って七五三詣りご祈祷を11月中執り行っております。
※祈祷札と記念品を授与
御祈祷料　三五〇〇円

☆宗祖日蓮聖人御会式法要
9日(土)～10日(日)
※法要に参詣された方にはお会式桜とおはぎの供養があります

★写経会　10日(日)11時
★月例祈願法要　15日(金)13時
★星嶺演奏会　17日(日)11時
プロの生演奏
★星嶺茶論　17日(日)13時
★鴎様月例祭　22日(金)15時

【12月の行事予定】

★写経会　8日(日)11時
初心者の方もどうぞ！
★月例祈願法要　15日(日)13時
妙見さまの御縁日祈願会
★鴎様月例祭　22日(日)15時
火伏守札を授与
＊12月から2月までの星嶺茶論はお休みします

《交通のご案内》
◆ケーブル&リフト毎日運行中
※12月9日から来年3月19日までお正月を除き運休。

◎新年歳始祈祷のお申込みの受付を開始致しました。

朝暮に怠らず磨くべし

桑木 信弘

最近、歯医者へ通っていて奥歯を抜いた。毎日懸命に歯磨きしたつもりでも鈍い痛みとグラグラした感覚はあった。が、病院嫌いの私、少々の事なら我慢で乗り切ろうとしてきた。我慢強いのは美徳かもしれないが度が過ぎるとただの毒である。私も今では一つのお寺を預かる住職。具合が悪ければ早めに治すよう心がけて嫌でも仕方なく病院へ行った。

人間の歯は二十本が穀物用の臼歯、八本が野菜や果物をガブリと食べる前歯、四本が肉や魚を食べる犬歯で、比率にすると一対二対五。この比率で食べ物を選ぶと良いが、現在の日本人は肉の比率が二倍近い数字らしく「腹八分に病なし、腹十二分に医者足らず」の格言が示す通り食べ過ぎは血や気の流れを悪くして心身の病気を誘発する。

薬には上中下があるといわれる。下が治療薬、中が予備薬、上が医食同源。やはりバランス良く食べる事が健康の基本。

昔々のインドの仏教僧院では、朝の洗面、歯磨き、手洗いが厳格に行われていたようだ。歯ブラシは梵語でダンタ・カーシュタという。専用の木を水に一晩つけておき、その先をよく噛んで柔らかくしてから、綺麗に奥歯から磨き水でよく漱ぐ。歯根にたまった昨日来の穢れをそのままにしておくと、歯垢や歯石となってしまう。感謝して食べる事が供養でもあるから、口を洗浄して食事の作法が終わるそうだ。

これは歯だけの話ではない。心の穢も同じだ。

法華経には「すべての苦しみは貪欲を本とす」と説かれる。知らず知らずに穢がたまってくると、歯と同様心身の患いにつながる。

日蓮聖人も「日夜朝暮に怠らず磨くべし」と仰られている。

昨日来の穢れを明日や未来に持ち込まぬように、そしてそれと同時に、日々生活の中で頂くご縁に感謝して毎日を過ごすのが私達の目指す姿と感じる。

歯も心も、日々怠らず、毎日感謝の気持ちを忘れずに磨いてゆきたい。

「やってもやっても終わらない名もなき家事に名前をつけたらその多さに驚いた。」という本が売れている。誰からも評価されないが地味で大変な仕事に光を当ててくれたと主婦からも人気らしい。

認められない仕事をひたすら続けるのはとてもしんどいし、やってあたりまえだと思われると心もすり減る。これはきっと家事だけではない。

そんなとき思い出して欲しい、ただ一人、確実に私達を見守ってくださる方がいる。それはお釈迦様だ。仏を信じ仏と共に過ごしていれば、人生に必ずや光は差してくる。

U.K

★☆★☆星のたより★☆★☆

俳壇 ～みのり～

風により右に左にすすきの穂

梳る(くしけず)子のおさげ髪冬きざす

台風の行方をにらむ予定表

どんぐりのはねる石段七十段

口あけてさす目薬や初時雨

法華経茶話

良医病子喩（二）

どうすれば症状の重い子供達が薬を飲んでくれるのか。良医の父は思い悩んだ結果「私ももう老人だからやがて死ぬが悲しむな。ここに私が調合した薬を置いておくから飲みたくなったら飲むがいい」とだけ言い残し、旅に出ました。そして、旅先で人を通し、父は死んだという偽りの知らせを子供達に送ったのです。

父が死んだという知らせを聞いた子供達は嘆き悲しみました。そして父を慕ううちに最後の言葉を思い出し、薬を飲む気持ちがおこり、ようやく病が癒えたのです。その一報を聞いた父は旅から帰り、元気になった子供達を見て大変喜びました。

つまり釈尊は、いつまでも生きていては衆生は安心してしまって自分の話を聞かないから、仮に死ぬ（涅槃する）ことにしたのです。